

学校教育目標	明るく さわやかな子の育成
目指す学校像	「おもしろさ」を追求する学校～「子どもたちが毎日生き生きと登校し、好奇心をもって学習に取り組み、友達や教職員との温かな触れ合いの中で自分の居場所を実感できる学校」～
重点目標	1 基礎・基本の徹底と個性を生かす授業の推進 2 豊かな心と心身ともにたくましい子どもの育成 3 芝原小コミュニティ・スクールを中心に家庭や地域の願いを踏まえた開かれた学校経営 4 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 5 教職員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

学校地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価		学校運営協議会による評価
年 度 目 標					年 度 評 価		実施日令和8年2月12日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現況〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、県平均よりも下回っている状況である。 ○日頃の学習の様子から、話したり聞いたりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び算数では「変化と関係」を不得意とする児童が多い。 ○算数において学習が好きな児童の割合が全国、市平均よりも大きく下回っており、算数を学ぶ楽しさを味わえるようにすることが課題である。	・学びの個別最適化に向けた情報端末の活用、授業改善	①国語、算数の学習において個別最適化を目指した授業実践を積み、教職員で共有する。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、児童が自らの学習状況を把握するとともに、誤答が多かった問題について再学習する。 ③全国及び市の学習状況調査の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善につなげ学力向上を図る。	①情報端末を活用した学習の個別最適化を目指した実践を教職員1人あたり年間に1回以上公開できたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善につながる手立てが立てられたか。	①情報端末を活用した学習の個別最適化を目指した実践を教職員1人あたり年間に概ね1回以上公開できた。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自分が苦手な教科の領域や単元を把握し、再学習に取り組んだ。 ③学力向上カウンセリング研修を通してカリキュラムマネジメントを意識した教科横断的な視点からの授業改善の方法を学び、日々の授業改善につながる手立てを立てることができた。	B	①学びの個別最適化に向けて、授業改善は引き続き行う。情報端末も新しくなるので、更に活用できるよう活用方法を共有していく。 ②目標達成のため、再学習の方策を立て、復習できる仕組みを整え、実践していく。 ③調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を続け、客観的な授業改善の視点を持ち、実践していく。
		・算数を学ぶ楽しさを味わえる授業の工夫、改善	①算数において、具体物や半具体物を使って考えることや、定規等を使用した作図など丁寧に取り組み、理解につなげる。 ②学校課題研修を算数に絞り、指導者を招聘して授業力の向上を図る。	①②さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合が市平均を上回ることができたか。	①②本校独自の調査において「算数の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合が1回目調査結果(71.6%)よりも2回目の調査結果(73.6%)が上回った。	A	①②学校課題研修での成果を生かし、引き続き算数好きな児童の育成を図ることを意識して授業改善を行っていく。
2	〈現況〉 ○学校評価児童アンケートにおいて「学校に来るのが楽しい」の肯定的な回答をした児童が86%であった。 〈課題〉 ○「心と生活のアンケート」の結果から各学級に様々な不安を抱えている児童がいることが分かる。日頃から子ども達の様子に目を配るとともに、変化には迅速に対応することが必要である。	・望ましい人間関係を基盤とした学級経営 ・児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の整備	①学級経営においては、温かな雰囲気作りをベースとし、一人ひとりが活躍できる居場所作りを行う。 ②心に不安を抱える児童には教育相談部、生徒指導部等の組織を中心とした組織的に迅速な対応を図る。 ③スクールダッシュボードを活用し、さまざまな側面から児童に寄り添った対応をする。	①学校評価児童アンケートの関連項目において肯定的な回答をする児童が85%を越えたか。 ②学校が把握する児童の心の不安に対して全てに組織的対応ができたか。	①学校評価児童アンケートにおいて「学校に来るのが楽しい」に肯定的な回答をする児童が85.8%であった。 ②③学校が把握する児童の心の不安に対して、組織的に対応ができた。	A	①学級経営においては、温かな雰囲気作りをベースとし、一人ひとりが活躍できる居場所作りを基本としていく。 ②学校が把握する児童の心の不安に対して、些細な事でも迅速に組織的に対応をしていく。 ③スクールダッシュボードの利活用については課題が残るので、効果的な活用の方法について情報共有を図っていく。
		・本校に伝わる「芝原小さわやかプラン」の共有 ・地域や保護者と連携した学習活動の推進	①「芝原小さわやかプラン」の柱「『おもしろさ』を追求する学校」に注視し本校の特徴を見出す。 ②芝原小学校ファームアドバイザーとの連携強化と活動の充実を図る。 ③保護者と連携して児童の実態に即した課題解決を図る。	①「『おもしろさ』を追求する学校」に基づく本校の特徴を見出し職員で共有できたか。また、それを生かした次年度の計画が立てられたか。 ②1、2、4、5学年、特別支援学級で学校ファーム連携学習が1単元以上実施できたか。 ③児童の実態に即し、テーマを決めた講演会の開催ができたか。	①「芝原小さわやかプラン」の柱「『おもしろさ』を追求する学校」に基づく本校の特徴を見出し職員で共有できた。また、それを生かした次年度の計画が立てられているところである。 ②1、2、4、5学年、特別支援学級で学校ファーム連携学習が1単元以上実施できた。 ③「学校保健員会」「PTA講演会」を開催することができた。	B	①「芝原小さわやかプラン」の柱「『おもしろさ』を追求する学校」に注視し、本校の特徴を生かした教育活動を推進する。 ①芝原小学校ファームアドバイザーとの連携強化を図り、活動を充実させる。 ②保護者との連携を深め、時期や内容について児童の実態に即した活動を進めていく。
4	〈現況〉 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童の怪我が0件、医療機関を受診した怪我は0件であった。 〈課題〉 ○教職員による施設、設備の安全点検を引き続き行うとともに、児童にも安全な生活が送れるように定期的に注意喚起を促す。 ○校地内には、修繕が必要な箇所が複数ある。	・安全な生活が送れるようにするための教職員による安全点検と児童へ注意喚起 ・安全な環境を作るため、修繕や工夫の実施	①毎月の安全点検を全職員で行い、不具合には迅速に対応する。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など安全に関わる学習を計画的に進め意識を高めさせる。 ③生徒指導部の活動を中心に季節に応じた安全意識の向上を図る。	①毎月の安全点検を確実にに行えたか。不具合には迅速に対応できたか。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など学校安全に関わる学習や訓練を行ったか。 ③学校評価児童アンケートにおいて関連項目に肯定的な回答をする児童が95%を越えたか。	①毎月に安全点検は確実にを行い、不具合には迅速に対応ができた。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など学校安全に関わる学習や訓練を行った。 ③学校評価児童アンケートにおいて関連項目に肯定的な回答をした児童は96.3%であった。	A	①日頃の安全点検をしっかりと行うとともに不具合があった際は迅速な対応を行う。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など学校安全に関わる学習や訓練を設定を変え、さまざまな視点から行う。 ③生徒指導部や安全部の活動を中心に安全意識の向上を図る。
		・修繕の優先順位を決め、安全な環境づくりを進める。	①修繕の優先順位を決め、安全な環境づくりを進める。	①計画的に修繕を行うことができたか。	①計画的に修繕を行うことができた。	A	①優先順位を見極め、教育委員会と連携を図り、計画的に修繕を進める。
5	〈現況〉 ○経験年数に差がある教職員の集団である。学年会等で学びあひながら、教育活動を進めている。 〈課題〉 ○全教職員が先を見通して教育DXを推進することで、業務改善を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実 ・働き方改革を見据えた業務改善の効率化	①学校課題研修についての研究授業を全学年で実施する。 ②全ての教員が個別最適な学びを取り入れた公開授業を実施する。 ③管理職との対話により、主体的な教職員研修を支援する。	①授業研究会6回以上実施できたか。 ②全ての教員が個別最適な学びを取り入れた公開授業を年間1回以上実施できたか。 ③主体的に計画した研修が実施されたか。	①授業研究会は6回以上(全ての学年)で実施できた。 ②全ての教員が個別最適な学びを取り入れた公開授業を年間1回以上実施できた。 ③主体的に計画した研修が実施できた。	A	①学校課題研修で確立した「芝原スタイル」は継続して授業に取り入れていく。 ②個別最適な学びを取り入れた授業改善は、継続していく。全ての教員の公開授業も継続する。 ③各教職員が主体的に計画した研修が実施できるよう支援をする。
		・働き方改革を見据えた業務改善の効率化	①ワークライフバランスを意識した働き方をする。 ②働き方改革につながる提案を運営委員会などで検討する。	①ワークライフバランスデーを毎週1日実施できたか。 ②提案された改善案を3つ以上実施できたか。	①ワークライフバランスデーを毎週1日実施できた。 ②働き方改革につながる改善案を4つ実施した。	A	①②ワークライフバランスデーや働き方改革につながる業務改善を引き続き行う。 ＊「業務量管理・健康確保措置実施計画」に係る内容が追加される予定である。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- 算数の勉強が好きな児童の割合が増えてきていることが分かった。学力も引き続き向上するように、方策を立てて、取り組んでほしい。
- タブレットが新しくなるようだが、データ量や通信速度に対応できるようなWi-Fiの環境をもつと整備する必要がある。授業でもタブレットの活用がより進むような環境にした方がよい。
- チャレンジスクールの児童を見ていると配慮が必要な児童が多くいる。配慮が必要な児童に対して、理解を深める研修があることが分かった。
- 令和8年度にいろいろ学園ができるので、さいたま市の児童の選択肢が広がることが分かった。
- 学校ファームの取組は、アドバイザーの協力の下、児童にとってかけがえのない活動になっている。アドバイザーと連携を取りながら、引き続き続けてほしい。
- 放課後、自転車に乗る時にヘルメットの着用が無い児童が見られる。4月から道路交通法が改正されるので、今後も家庭に呼びかけ連携してヘルメット着用を進めてほしい。
- けがをする児童が、どこで怪我をしているのかが、分かった。児童が安全に過ごせるよう、引き続き指導をしてほしい。
- 引き続き施設の老朽化については計画的に修繕を行い、清掃についても気を配り、教育環境を整えてほしい。
- 市教委委嘱の授業研究会の成果が出ていることが分かった。その成果を生かし、児童の力をつけるためにも、引き続き教育活動の充実をしっかり取り組んでほしい。
- 働き方改革の時代であるが、先生方がいろいろなことに熱心に対応してくれてありがたい。

